

地域環境と犯罪発生に関連性について —高槻市を対象として—

A study of correlation between crime and local environments in Takatsuki-city

田中 健介

Kensuke TANAKA

SUMMARY

In recent years, the criminal number of Japan is decreasing. However, the social situation of today is uneasy. Osaka occurred to the most street crime in Japan in 2013, and it is serious problem. Therefore, it is important to think about anticrime measures. The purpose of this study is to clarify the correlation between crime and local environments in Takatsuki-city, and to decrease a crime. This study focused on Takatsuki and analyzed the criminal tendency of Takatsuki-city. The result of correlation analysis, there was a correlation between street crime and condominiums.

KEYWORDS

correlation , street crime, environments, condominiums

1. 研究の背景と目的

近年、日本の犯罪認知件数は、減少傾向にあるものの戦後に比べれば、まだ相当高い水準にあり、まだまだ治安に関して不安が残る。大阪府は、ひったくりや、路上強盗といった街頭犯罪の年間認知件数で 2013 年の全国ワースト 1 位となった。大阪府警が 2014 年 1 月 9 日までにまとめたところによると、街頭犯罪(7 手口)のうちひったくり、路上強盗、車上狙いなど 5 手口で大阪府が全国で最悪の結果となった。件数自体は減少したが、減り幅が他の都道府県より小さかったことが全体で 4 年ぶりのワースト 1 位となった理由として挙げられる¹⁾。

このような犯罪情勢を踏まえ、より安全・安心な暮らしを築いていくためにも犯罪対策をより強化に考えていく必要がある。様々な防犯対策がある中で、私は、防犯環境設計 (CPTED) に注目した。CPTED とは、「物理的環境を適切に設計・利用することで、人の心理や行動に影響を及ぼし、未然に犯罪の発生を防ぐ手法」²⁾ というもので、環境の条件が揃えば犯罪を遂行する機会犯罪などに有効とされている。また、まちづくり・都市計画レベルでの防犯対策としても取り入れられている。防犯まちづくりを考えていく上で、その地域ごとの地域特性を把握する必要がある。

今回の研究では、「高槻市」の犯罪傾向をつかみ、犯罪の発生場所とその周囲を取り巻く環境が密に関係しているという考えの下、高槻市の地域特性と犯罪発生との関連性を明らかにすることを目的としている。

2. 高槻市の犯罪情勢

図 1 は高槻市で発生した犯罪認知件数の推移グラフである³⁾。高槻市の犯罪総数のピークは、平成 17 年に 5,715 件で年々減少傾向にある。

平成 24 年の高槻市内の犯罪率(人口 1,000 人あたりの刑法犯の件数)は 8.5 件。この犯罪率は大阪府内の市において最も低い数値で、大阪府下 43 市町村の中でも 6 番目に低い数値となっている⁴⁾。

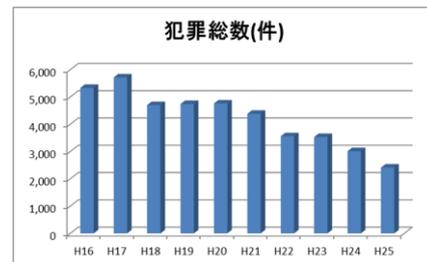


図 1 高槻市における犯罪総数の推移

また、大阪府警察が作成している安まちアーカイブ^{注 1}のデータを基に、高槻市で起きた犯罪件数(H21~25)をまとめた。安まちアーカイブでは、様々な犯罪種の内、街頭犯罪・侵入盗^{注 2}のデータが掲載されているため、このデータを使用し、高槻市で発生した機会犯罪・侵入盗の発生割合をまとめた。それが図 2、図 3⁵⁾である。

この図から、発生割合の上位を占めているのは、街頭犯罪では、部品狙い、自転車盗、車上狙いと手軽に犯罪が行えるものが独占しており、侵入盗では、空き巣が 49%と、侵入盗の中でほぼ半数を占めていることが分かる。

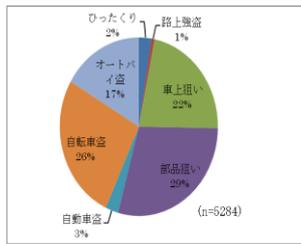


図2 街頭犯罪の発生割合

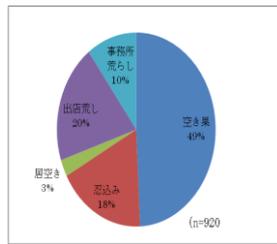


図3 侵入盗の発生割合

3. 高槻市の地域特性と犯罪の関係

(1) 分析方法

高槻市は381の町丁で構成され、その地域ごとに様々な地域特性がある。平成12年と22年の国勢調査の小地域統計と安まちアーカイブの犯罪統計データを使用し、地域特性と各種犯罪（街頭犯罪・侵入盗）の関連性を調査した。

今回の分析で使用する地域特性を示す指標は、総世帯数、高齢者数、一戸建、長屋建、共同住宅と、この5つの地域特性の平成12年から22年の変化量である。犯罪と地域特性との関係性について、相関の強弱で表わす。相関係数が $|r| = 0.4$ 以上の場合相関があるといえる。

(2) 結果

相関分析の結果、車上狙い・部品狙い・自転車盗・オートバイ盗が地域特性と関係していることが明らかになった。その結果が表1である。また、犯罪種別に分けずに街頭犯罪・侵入盗の分析を行った結果が表2である。今回の分析では、侵入盗は地域特性との相関が見られなかった。

表1 犯罪種別 相関分析結果

犯罪種	要素	相関係数
車上狙い	総世帯数	$r=0.45$
	共同住宅	$r=0.42$
部品狙い	総世帯数	$r=0.49$
	共同住宅	$r=0.52$
自転車盗	共同住宅	$r=0.47$
	共同住宅変化量	$r=0.47$
オートバイ盗	総世帯数	$r=0.49$
	共同住宅	$r=0.54$
	総世帯数	$r=0.53$

表2 街頭犯罪・侵入盗 相関分析結果

犯罪種	要素	相関係数
街頭犯罪	総世帯数	$r=0.53$
	共同住宅	$r=0.59$
	共同住宅変化量	$r=0.40$
侵入盗	相関が見られなかった	

4. まとめ

今回の分析で相関関係がみられた犯罪は、主に「総世

帯数」「共同住宅」「共同住宅変化量」という地域特性と関連していたことが明らかになった。この地域特性を合わせて考えると、団地、マンションといった集合住宅の地域環境を想像することができる。集合住宅には、数戸の低層住宅から超高層のマンションのように100戸を超える大規模のものまで様々なタイプがあり、その数は年々増加し、そこに住む人も増加傾向にある。実際、高槻市では平成12年に、共同に住む世帯数は51,015世帯であったが、平成22年には60,803世帯に増加している。

共同住宅の中で、目の届かない環境として挙げられるのは、駐車場・駐輪場といった共有部分であり、そういった目の届かない環境を犯罪者は狙うのである⁶⁾。駐車場・駐輪場といった環境に対して、防犯カメラの設置、重点的な見回りが有効的な対策として考えられる。しかし、最も有効的な対策はその地域の住民が、自分たちがどういった地域環境に住んでいるのか、また、その環境においてどういった犯罪が起こりやすいのかという知識を共有し、個人個人が犯罪に対する防犯意識を日頃から持つておくことだと私は考える。

今後の課題として、今回の研究で相関が見られなかった犯罪種に対して、他にどのような環境のもとで発生するのかという分析と共に、高槻市だけではなく、他の地域ごとの地域特性と犯罪発生との関連性を調査していくことが望ましいと考えられる。

注1 安まちアーカイブとは、企業等による犯罪抑止に向けた情報発信活動をサポートするためのサイト。

注2 街頭犯罪…ひったくり、路上強盗、車上狙い、部品狙い、自転車盗、自動車盗、オートバイ盗のこと。H25年より自販機狙いは、街頭犯罪の区分か外れた。

侵入盗…空き巣、忍び込み、居空き、出店荒し、事務所荒しのこと。

引用 参考文献

- 1) JCAST ニュース 大阪の治安、大いなる憂鬱 府警半年で7件誤認逮捕、「街頭犯罪全国ワーストワン」
<http://www.j-cast.com/2014/01/10193936.html?p=all%AD%A6> (2014/01/13)
- 2) 小出治・樋村恭一：都市の犯罪 工学・心理学からのアプローチ北書房、2003年
- 3) 大阪府警察 犯罪統計
<http://www.police.pref.osaka.jp/> (2014/01/20)
- 4) 高槻市ホームページ 安全・安心のまちづくり (防犯編)
<http://www.city.takatsuki.osaka.jp/index.html> (2013/11/23)
- 5) 安まちアーカイブ
<http://www.police.pref.osaka.jp/cgi-bin/anmachi.cgi/gateway/> (2013/12/27)
- 6) 清永賢二、篠原惇理、田中賢、川島宏昌著 防犯環境設計の基礎彰国社、2010年
- 7) 出口寛子他 街路上における犯罪と地域特性の関係性について 一大阪市24区を対象として 一 日本建築学会大会学術講演便概集、2010年9月